

# 医療勤務環境改善支援センターの活用事例 <国立病院機構函館病院>

～医師事務作業補助者のスキル向上及び教育体制整備に取り組んだ事例～

- 独立行政法人国立病院機構函館病院 (函館市、1978年4月開設)
  - ・ 許可病床数：305床（一般300、結核5）
  - ・ 職員数：約365名（医師約30名、看護師約220名など）



(写真：国立病院機構函館病院ホームページより)

## ○医療勤務環境改善支援センターへの相談の経緯

2019年7月2日

- ・ モデル医療機関への申し込みあり。
- ⇒ 病院内で取り組みたい内容として、時間外労働削減・医師のタスクシフト・看護師の業務整理など、複数の課題あり。

- ⇒ センターより、医師事務作業補助者の教育・研修の仕組みやスキルアップに関して支援可能な旨を説明。
- ・ 支援の際には、[医師事務作業補助研究会メンバーからのアドバイスも可能](#)。

2019年7月16日

- ・ 病院を訪問。[病院の現状、優先的課題などについてヒアリング](#)。
- ⇒ 院内の課題はいくつもあがるが、働き方改革で今後は医師のタスクシフトが必須になってくると考えている。
- ・ そのために、今のうちから医師事務作業補助者を育成したい

2019年8月

- ・ [支援プランの作成・提示、合意](#)。支援開始。
- ・ 令和元年度は、医師事務作業補助者の教育・研修体制構築を目指す。
- ・ 医師事務作業補助者のスキルアップにより、医師からのタスクシフトを推進する。

約20名程度

## ○医療勤務環境改善支援センターによる支援の手順

### ステップ1

課題認識及び目指すべき姿の共有

#### ○主な取組・支援

- ・ 医師事務を統括する管理者へのヒアリング実施。具体的進め方の検討。
- ・ 医師事務のリーダー・サブリーダーとの意見交換会・課題整理を実施。
- 医師事務の「先輩」である専門家をアドバイザーとして派遣。マニュアル作成等継続的な関わりを持つことに。

### ステップ2

マニュアル作成に向けた先進事例の情報収集および視察

#### ○主な取組・支援

- ・ 医師事務に関して先進的な取組を行っている病院を視察。
- 体制・業務の流れなどを学ぶ。参考となる資料を入手。継続交流のきっかけ。
- ・ ステップ1で整理された課題のうち実施可能なものに着手（部屋の配置替え等）。

### ステップ3

業務手順の整理、業務マニュアル案の検討・作成

#### ○主な取組・支援

- ・ リーダー・サブリーダーが中心となり、各科で書き溜めた「業務手順」を整理。
- ・ 整理した内容をベースに、先進他院の事例・既存テキストなどを参考にしながら、業務マニュアル案を作成。
- 専門家が検討の場に同席、アドバイス。

### ステップ4

新人向けマニュアルの作成、32時間研修カリキュラムの検討

#### ○主な取組・支援

- ・ 業務マニュアル案について意見交換。
- マニュアルをベースに人材定着を視野に「新人・1か月研修向けマニュアル」を作成。
- ・ 病院独自の32時間研修カリキュラム案を作成。
- 院内調整の後、運用へ。

## ○ワンポイント

経験のある医師事務作業補助者が中心となり自らマニュアル作成に取り組む中で、責任感や意識の変化が生まれました。新人向けマニュアルを作り上げることができたので、このマニュアルを活用・発展させ、医師事務作業補助者のスキルアップ・定着を図り、医師からのタスクシフトを目指していきます。